

部局名	総務企画部	所属名	情報管理課	所属長名	八木澤 進	電 話	483-1151 内線2450
-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	3633		事務事業名称	電子計算組織管理事業					短縮コード	経常	3633	臨時	3634
予算区分	会計	01	一般会計	款	02	総務費	項	01	総務管理費	目	10	情報管理費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		八千代市電子計算組織管理運営規程							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
・事務処理量の増大により自己電算処理の必要が生じた。 ・市政運営の効率化と市民への情報提供の迅速化の要求による。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	06	計画推進のために						
1．事務処理の電算化は、市政運営に不可欠な状況であり、個々の業務処理について、より細かい処理をするようになってきているため、今後も増加する傾向にある。 2．行政サービス(窓口サービス)の時間の延長や総合窓口（ワンストップサービス）が要請される中で、今後、その対応が必要になる。 3．パソコンサーバシステムを導入している部署が増加しているため、「共通基盤システム」の構築による基幹システムの大型汎用コンピューターシステムの利用への切替（ダウンサイジング化）の検討が必要である。					大項目（節）	01	パートナーシップによる市政運営と市民自治の推進						
					中 項 目	03	市民サービスの向上を図る行財政運営の確立						
					小項目（施策）	01	効率的な行政運営の確立						
					細 項 目	04	電子自治体の推進						
実施計画の計画事業													
計画事業の位置付けの有無			☐	計 画 事 業 期 間		～			計 画 事 業 費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	・電算業務処理依頼課 ・電子計算機による行政事務処理							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成21年度に実際に行ったこと： 1．各課より電算処理の依頼のあった業務処理および業務処理に伴う消耗品の調達および電子計算機本体並びに関連機器の維持管理をした。 2．パソコンサーバシステム導入課で住民記録情報等の電子計算機本体で管理している情報を必要とする部署に対し、情報の配信とシステム間連携の維持管理をした。							
	※平成22年度に計画していること： 1．共通基盤システムを導入した場合に、電子計算組織管理運用事業のプロセスがどのように変わるのか、また、システム開発事業との連携による双方の事業効率、業務課のニーズにどう応えられるか検討。 2．その他は平成21年度と同じ。							
意図 （何を狙っているのか）	1．迅速な業務処理を行い、各業務処理依頼課に対して正確な結果を提供するとともに、市民への行政サービスの向上を図る。 2．電子計算機および関連機器に障害が発生しないよう管理するとともに、安全・安定性の高い運用をする。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	2 0 年度	2 1 年度		2 2 年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	業務処理依頼総件数	件	9, 159	9, 800	10, 484	10, 800	
	指標 2	業務処理予定総時間数	分	254, 163	271, 900	256, 273	236, 300	
	指標 3							
活動指標	指標 1	業務処理総件数	件	9, 786	9, 800	11, 184	10, 300	
	指標 2	業務処理総時間数	分	197, 520	193, 424	245, 805	203, 100	
	指標 3							
成果指標	指標 1	業務処理総件数/業務処理依頼総件数	%	107	100	107	95	
	指標 2	業務処理総時間数/業務処理総件数	分	20. 2	19. 7	22	19. 7	
	指標 3	業務処理総件数のうち円滑に処理した件数の割合	%	100	100	100	100	
上位成果指標	指標 1							
	指標 2							
	指標 3							

コード	3633	事務事業名称	電子計算組織管理事業				所属名	情報管理課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			現在の汎用電子計算機システムの運用を、ブレードサーバ（高機能・大容量・小型化された複数台のサーバが格納された汎用サーバ）を利用した共通基盤システムの導入により、各業務課のシステムをダウンサイジング化することで、現行の業務処理依頼に係る事業部分を縮小・廃止するのみならず、システム機器の効率的且つ有効的な利用が可能となる。			
		☒ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			共通基盤システムの導入により、基幹システムの情報（住民記録、税情報等）連携の一元的なシステムルールを確立することが出来ることになり、これによりIT調達ガイドラインの策定・運用がなされることで、システムのハード・ソフト・管理運用費用の削減が可能となる。 なお、システム導入後主要業務課の業務専用システム（パッケージシステム）の導入までの数年は、多額の経費を伴うが、中・長期的には経費の削減と成果の向上が見込まれる。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☒	☐	☐		
			不 変	☐	☐	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
・オンライン処理は17時に終了するが、市民窓口を担当する各課の事情で延長して欲しいという要望がある。また、市民の要請により、業務処理依頼書の提出後に急遽処理の必要が生じる場合があるので、柔軟な対応が求められている。									

所属長コメント	基幹情報システムの問題点に対しては、システムの改善とそれに伴う業務改善といった「業務・システム面」からの改善方法と、組織体制の整備や人材育成といった「組織体制・人材面」からの改善方法が考えられる。このことから、今年度（22年度）策定予定の基幹情報システムの再構築計画では、考えられる改善方法の中から、本市にとって有効なものを盛り込んで計画を作っていく必要がある。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			基幹情報システムの見直しについては、課題解決に努め、順次推進すべき。 また、ダウンサイジング化と併せ事業の対象・意図を変更すべき。					
	☒ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☐ 現状のまま継続									